

## 涙がおしえてくれたこと

とりかえしのつかないことが起ると、何がいけなかったんだとあれこれ悩み、ときに自分をせめる。でも、そんな「負のスパイラル」から私たちをすくってくれるものがある。先日、こんなことがありました。

朝、大きな箱が事務室玄関においてあった。気に留めぬまま屋前ようやくのそくと、中に一羽のツバメ。はねを広げ、ばたつかせている。成鳥らしい。いろいろ聞いて分かってきた。きっとどこかにぶつかり落ちたのだろう

門扉前でうずくまるのを登園する子がみつけ、職員に知らせてくれた。

どうしたらいい？ とりあえず箱に新聞をちぎって横たえた。

「動物園なら何かできるかも」との言葉を頼りに電話してみる。

「はい、京都市動物園です。野生生物保護センターに持ってこられたら、預かりますよ」

鳥はまだ胸で大きく息をしている。間に合うだろうか。とにかく行こう。

後部座席の床に箱をおき、エンジンをかける。渋滞。おそい信号。じりじりと約40分。急いでいたので搬入車入口から業者トラックに続いて入ろうとして職員に止められた。事情を説明すると分かってくれた。車から箱を取り出し中をのぞく。が…

出発前、動いていた胸がとまっている。広げていた羽は両方とも閉じられている。若い職員は何も言わず箱を受け取り、走って中へ。素手で鳥を抱き、机の上で羽を広げ、2本の指で胸を押す。何度も。人間と同じ救命マッサージ。だが、鳥は動かない。

私は脳裏で「もう無理なのでは」「なぜもっと早く気づかなかったんだ」「もし渋滞がなかったら…」「帰って子どもたちになんて言おう」。後悔や言い訳ばかりが次々うかぶ。その間も胸を押し続ける彼。いよいよ諦めて私は言った。「もうだめですよ」。

その言葉にはじめて彼は指をとめた。そして再び鳥を抱き「残念ですが…」。

言葉をつまらせ、うつむき、涙を流した。びっくりした、彼の涙に。

そして、心が熱くなった。「言い訳」よりも大切なものに、その涙は気づかせてくれた。うまくいかず落胆する時も、たったひとすじの涙で心は通じ合う。

何<sup>も</sup>も離れたこの場所で、小さなたった1羽のために泣いてくれた人がいる。

彼の涙はきっと、園で待つ子どもたちの心ともつながっているにちがいない。

そう思うと、ある聖書の言葉を思い出した。

「泣く人と共に泣きなさい」。(ローマ 12:15)。

(つくし保育園園長 つだ かずお)

<だいで教会より>

月に一度、大人と子どもが共にあずかる「楽しい礼拝」があります。

次回は10月30日(日)あさ 10:30~。

礼拝後、一緒においしいデザートをいただきます。

### 一心が動けば からだが動くー

身体を動かして戸外で遊ぶよい季節になりました。園庭で遊ぶ子どもたちの目はとても輝いています。でも今、統計でみると年長児の体力は30年前の年少児の体力しかないという結果がでています。転んでも手がでない、動きがぎこちない、意欲がないということも指摘されています。このことは自分の動きの先がみえないということからもきています。運動は、心と身体を一致させます。あっ！面白そう！やってみたい！と思ったと同時に身体も動き出します。運動が先にあるのではなく、心が先なのです。遊びを通して現象世界がわかって、自分がわかり、相手のこともわかっていくのです。遊びとは衝動です。衝動とは感動です。感動とは心です。心におこるできごとは、教えるものではありません。遊びの学びは自分で得ていくのです。これからも、子どもたちのやってみたい！と心が動くことを大切にしながら環境を整え、健やかな成長を願いながら偏りのない運動経験をプレゼントしていきたいと思ひます。